

つながる鎌倉エール事業（協働コース） 審査選考結果

事業名・担当			審査項目									合計	結果	
			公益性	事業内容	手法	役割分担	計画	事業の必要性	協働の必要性	協働自体の効果	協働の成果			双方の実施体制
1	鎌倉の子どもが創るローカルマガジン「ことごと」		2.8	2.8	2.8	3.2	2.8	3.2	2.2	2.8	2.8	3.4	28.8	不採択
	団体:	NPO法人マナビノキ												
	担当課:	地域のつながり課												
2	野村総研跡地を魅力ある場所に プロジェクトII		4.0	3.2	3.2	3.4	3.2	4.2	3.6	3.2	3.4	3.8	35.2	採択
	団体:	山桜を守る会												
	担当課:	公的不動産活用課												
3	共生社会推進のための生活ガイドアップグレード・相談支援事業		4.8	4.2	4.0	4.2	4.2	4.8	4.6	4.2	3.8	4.4	43.2	採択
	団体:	特定非営利活動法人まるまーる												
	担当課:	地域共生課												

※印の項目の平均点が3点以上で、かつ合計が30点以上の団体から採択。

鎌倉市市民活動推進委員会選考部会による講評

1 鎌倉の子どもが創るローカルマガジン「ことこと」

- ・子どもたちが地域に気づき、好きになる、という子ども記者という試みは、非常に効果的で、成果も上がっている。
- ・取組内容は教育的観点から評価できるが、喫緊の課題とは言い難く、当事者が見えづらく公共性・公益性に課題が残る。
- ・担当課と協働事業に取り組んだ実績があるにも関わらず、市民活動団体とのつながりに広がりが見えない点について、担当課と協働事業を行うことが適切なのか疑問である。
- ・収入予算に寄附金を見込むのであれば、配布する冊子に記載するのみでなく、対面での営業等も検討するなど積極的な手法が望ましく、より現実的な収支計画を立てる必要があるのではないか。

2 野村総研跡地を魅力ある場所に プロジェクトⅡ

- ・委託ではなく、協働で継続的に実施する意義がある事業であり、公共性・公益性も高い。
- ・これまでの成果をわかりやすく企画に入れることで、若い世代や他の団体にも関わりやすい仕組みづくりにつながるのではないか。
- ・団体としての継続性を確保するために、企画内容として、若い世代や他団体など多くの方々に関わる仕組みづくりを検討してもらいたい。
- ・予算についても、収入が市の負担金のみとなっている点が懸念されるため、例えば、団体が保有する技術や知識を伝える教室を開くなど、団体としての収入を得る手段があれば、活動を安定的に継続出来るのではないか。
- ・市との連絡調整を含め計画性をもって取り組むことをより意識し、現場のノウハウを蓄積させ、他地区で同じような課題を抱える団体等に共有する機会を作ってもらいたい。

3 共生社会推進のための生活ガイドアップグレード・相談支援事業

- ・協働事業に相応しい事業であり、課題への着眼点・取組内容共に大変素晴らしい。
- ・前回の協働事業の成果が明確であり、また、過去の課題についても確実にクリアしようと取り組んでいる点が評価できる。
- ・外国籍の方への支援が拡がるきっかけとなる事業であると想定されるため、担当課には、団体の強い思いを受け止めて発展的な事業になるよう取り組んでももらいたい。
- ・出張相談会について、事前周知を計画的に取り入れることで効果的な内容となるのではないか。また、例えば物件を借りる際のサポートを県の宅建協会に依頼するなど、行政以外とのつながりを作ることでより広い視点での支援が出来るのではないか。
- ・日常生活だけでなく、地震・雷などの災害時に備えたリスクマネジメントも検討してもらいたい。